

令和3年度 学校関係者評価報告書

田中千代学園

学校関係者評価委員会

令和3年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員

- ・大豆生田 守 桑沢学園評議員
- ・松田 祐之 文化学園大学服装学部教授
- ・竹崎 博久 小田急百貨店顧問
- ・北出 義博 渋谷ファッション&アート専門学校講師
- ・松木 茜 渋谷ファッション&アート（田中千代ファッション）専門学校卒業生
- ・浅井 貴子 渋谷ファッション&アート専門学校在校生保護者

2. 学校関係者評価委員会開催状況

第1回委員会 令和3年11月25日（木）13:30～15:00 本校会議室

第2回委員会 新型コロナウイルス感染非常事態宣言下のため会議を中止し、
資料（授業評価アンケート結果等）郵送による内容確認。

第3回委員会 令和4年5月20日（木）13:30～15:00 本校会議室

報告事項

学校法人田中千代学園「令和3年度授業評価アンケート結果」及び「ファッション教育の未来」の内容を確認し評価委員会で評価し、その結果をまとめ「令和3年度学校関係者評価報告書」を完成させることとした。

以下にその内容を記すこととする。

[令和3年度授業評価アンケート結果に対する評価報告]

服飾専門課程については、令和3年度は就職環境と学生のニーズにフィットしたカリキュラムの編成としたため、多くの項目で、「そう思う」「ややそう思う」の回答となり学生からの授業評価は高かったといえる。しかしながら少数ではあるが否定的な意見もある以上、その内容の考察が必要である。

また、教員からは授業時間が短くなり説明に時間が費やされ実習や研究のための時間が足りない、経済状況が厳しくアルバイトをする学生が多い、そのため自宅での実習時間も少なくなっている。就職に対する取り組みの遅れ等、厳しい状況にあるとの指摘もあり、授業時間の短縮されたことによる教員の苦勞も多いことが伺える。

それに対応し、令和4年度は、服飾専門課程の授業を週4日間から週5日間に変更、当校独自の奨学金である「田中千代奨学金」は経済的状況を第一優先に選考を行い、また就職については未定のまま卒業した学生への支援を4月に入ってからも続けている。

文化（アート）専門課程は基礎力の強化と専門コースへのスムーズな展開をめざしたカリキュラムとしたが、おおむね授業に対する満足度も高く、教室等の準備、教員の指導に対しても満足とする学生が多い。授業時間については不足との声が多いので、放課後や長期休暇での自習など教室使用時間を増やしている。

コロナ禍の学生生活について学生は、感染防止へ自身の意識が高く、学校もあらゆる対策を施していることを理解している。しかしながら、文化祭やイベント、行事ができなかったことや親睦が少なかったことが残念なようである。

[ファッション教育の未来]

ファッションを学びたいという学生が全国的に減っていることは避けられない事実、復活への兆しも見えていない。アパレル業界がトレンドの発信をしなくなったり、衣料市場商品の95%を海外生産に委ねた結果である。さらに、ここ数年のコロナ禍によりアパレル企業の存続も厳しい状況にある。

アフターコロナの生活環境の変化を踏まえ、ファッション業界・教育の在り方の大転換期である。

専門学校として当校の今後を考えると服飾専門課程と文化（アート）専門課程の2つの専門課程を持つ特色を生かし、以下の3つの方法を推進する。

- ① 文化専門課程入学者60名以上確保する方策と内容刷新したカリキュラム編成による服飾専門課程再生。
- ② ファッション科名称変更による文化専門課程へ何らかの形で編入。
- ③ 当校で取り組む意義と今後の人口動態に配慮した新課程導入による大勢刷新。

学校は許認可事業で内容変更案作成から実施まで3～5年かかり、現行専門2課程見直しをどんな形で実現するか①～③等勘案し方向を定めることが緊急の課題である。

以上